ハヽ、二百石之御加増被下候へあ、千石の高ニ成被下、大番頭の格ニ被仰付被下候様ニ致度候、左候へともそや我等心さ〜も立、その身爲家の爲ニも、過候ゑとの御をんニて御座候、こゝ計願ニ御座候まゝ、御さ〜つゝいも無御座候ハヽ、右のとをりニ被仰付被下度願ニ御座候、以上、

一此書附外之者ニゝゝせゝ〜く御座候まゝ、おゑ瀬ニひそゝみ認させ申候、も〜女之手跡ニて御ゆゑんも御座候半ゝと、品々書付申候、以上、

二五〇二　伊達吉村意見狀

（包紙ウハ書）「（封目）」封

別而御用之儀申入候

猶々、段々御下向以後様子も見申候處、中々この病身ゝてハ、津田丹波事奉行職ニハ御用立申間敷候、其上其身も殊之外無四度計見得申候、何篇ニ御吟味可有之時節と存候間存慮ハ不殘申進候、此紙面木村藤馬ニ爲書進申候、以上、

江戸留守居ノ補充ニ就テ吉村ノ存慮

以別紙申入候、（後藤元康）孫兵衛事ハ、本書ニ申入候通、無是非事御座候、我等無御心元存候ハヽ、奥山主計始若年寄小性頭迄、一式初心ニ罷成、壹人ニ而も　公邊御内證共ニ御用承候者無之様成候事、我等ハ是のミ第一苦勞ニ存候、其身共之不調法ハ無是非事ニ候處、　公邊之儀何事そ致出し候半歟と、是而已苦勞存候、無申迄候へ共、葦名豐前壹人ニ而ハ成申間敷候間、早々佐藤主殿成共被相下、今壹人奉行職被仰付、代り御留守居ニハ、あり〳〵ニも相勤可申候ハヽ、高野隼人被仰付、被相登候様ニと存候、是ハ御留主居も勤り可申候、千萬無御心元存候間、存慮申入候、以上、

（寛延三年）九月廿七日

陸奥守殿

二五〇三　伊達宗村書狀控

江戸留守居ノ補充

○コノ文書ハ、吉村ニ宛テタルモノナリ、

（端裏書）
「扣
寛延三十八日立」

猶以、丹波義も御意被成下、御尤至極奉存候、私義も内々思召之通ニ奉存（マヽ）候
罷有候得共、只今ニ而ハ如何様ニも致方無御座奉存候用立申候者之由監
物申聞候、孫兵衛儀も、去年御尋之節宜敷者之由申上候と奉存候、御書藤馬
ヘ爲御書被遊候由、被爲入御念候御事奉存候以上、

御別紙被成下、敬奉拜見候、此度孫兵衛死去仕、主計始若年寄小性頭共、迄、
一式初心ニ罷成、此段第一無御心許被思召候、其身々之不調法ハ無是非
事ニ御座候處、公邊之義何ぞ仕出〳〵可申候哉、豐前一人ニ而ハ成申間敷
被思召候間、主殿相下〳〵奉行職申付、代り留主居ニハ、おり〳〵ニも相勤
可申候ハヽ、高野隼人申付、爲相登可然被思召候趣、委曲被仰出、誠以思召
被爲附、御心沒被爲盡候御事、難有仕合、筆紙難申上奉存候、主殿義ハ、其御
地發足前、奉行職之義御内々申上候而思召も奉承（伺）知候義故、先比早速申

付、罷下り候樣ニ申遣候、罷下り候ハヽ、奉行職可申付候、隼人義も、部屋之
節より年寄も相勤、樣子も心得居申候間、可然奉存候所、先比隼人病氣本
復相達申候節、役義可申付（之義）と吟味仕候所、主計發言より而、品々不宜義共申
聞候間、先以當時之役義申付置候、仍而先達申聞候趣、此度委曲ニ書付差
出候樣ニ申付、別紙入　御覽申候、私義ハ一向ニ心付不申候義ニ御座候、
御前ニも被召仕、御試可被遊、學文ヲ好申候所、右ニ付心得違之義間々有
之、並方存慮ヘ出合不申候義共ハ有之樣ニ奉存候得共、其段ハ隼人了簡
而已ヲ相用申義ニ無御座、其理之宜を以用捨仕候義故、少も相障申義ニ
ハ不奉存候處、別紙之通ニ而ハ、右申上候趣意とも又各別ニ奉存候、猶亦
思召も奉伺度、別紙相添奉言上候、仍而主殿代りニハ、先以大江文平申付、
爲相登申候、以上、
（寛延三年）
十月八日

伊達家文書之五

頁	行	誤	正
二五〇	一二	却、	却○

頁	行	誤	正
二六二	六	無、明根株	無明○根株

伊達家文書之六

正誤

頁	行	誤	正
二五	九 頭	吉村牧菅兵衛ノ婚禮ニ列席ス、	吉村牧菅兵衛ノ婚禮請諾○賀宴ニ往グ
七四	九	申上候ハて、	申上候ハヽ○
九〇	三	前之、	前々○
九六	四	申候とも	申付候とも
一二〇	一〇	「	○(朝○○○○「)ワハ書)
一五七	八	巳、	丑○
一五九	三	附箋	(附箋「)
一七〇	一	(附箋)	(附箋「○)
一九〇	八	申上あけ〆	申あけ〆

頁	行	誤	正
二〇六	一一 頭	梁、隱シ	釘○隱シ
二二八	七	御事、共	御用○共
三四三	一	手拭、掛、	手拭懸○
三八〇	六	御在所之類	御在所物○之類
三九〇	六	(附箋)	(附箋「○)
四〇二	九 頭	鄕始、	鄕姫○
四〇三	一	其他、	其外○
四二四	七	大田嘉兵衛	大田加○兵衛
四二五	二 頭	「藏政職居シ諸事案來任セトナル」ヲ削ル	

明治四十三年十二月十九日印刷
明治四十三年十二月二十日發行

著作權所有

編纂兼發行者　東京帝國大學
印刷者　印刷局
發行所　東京帝國大學文科大學　史料編纂掛
（電話下谷二十四番）

大日本古文書　家わけ第三　伊達家文書之六終

明治四十三年十二月十九日印刷
明治四十三年十二月二十日發行

著作權所有

編纂兼發行者　東京帝國大學
印刷者　印刷局
發行所　東京帝國大學文科大學　史料編纂掛
（電話下谷三十四番）

大日本史料
大日本古文書

既刊目錄

（四十三年十二月現在）

大日本史料（豫約各册金參圓）

第四編（鎌倉時代ノ內）

第一卷至第十卷　後鳥羽天皇文治元年十一月ヨリ順德天皇承元四年十二月ニ至ル　十册

第六編（建武中興及ビ南北朝時代）

第一卷至第九卷　後醍醐天皇元弘三年五月ヨリ後村上天皇正平元年七月ニ至ル　後光明天皇貞和二年七月ニ至ル　九册

第十二編（江戸時代ノ內）

第一卷至第十四卷　後陽成天皇慶長八年二月ヨリ後水尾天皇慶長十九年九月ニ至ル　十四册

大日本古文書（豫約各册金貳圓）

編年文書

第一卷至第六卷　大寶二年十一月ヨリ寶龜十一年ニ至ル　六册

第七卷（追加一）　和銅二年ヨリ天平十三年ニ至ル　一册

家わけ文書

第一高野山文書之一　ヨリ八ニ至ル　八册

第二淺野家文書　一册

第三伊達家文書之一　ヨリ六ニ至ル　六册

第四石清水文書之一　ヨリ二ニ至ル　二册

幕末外國關係文書

第一卷至第二卷 嘉永六年六月ヨリ同年九月ニ至ル

二冊

二

210.08
D251n
(66)